

特集 1

対談

膵癌早期発見のための アプローチ



はなだ けいじ
花田 敬士

JA尾道総合病院
副院長／内視鏡センター長／遺伝子診療部長



やぐみ しゅうじろう
八隅 秀二郎

医学研究所北野病院 消化器内科 主任部長

膵癌は、早期では自覚症状がほとんどなく、多くの場合、進行した段階で発見されます。そのため、5年生存率は極めて低く、難治癌とされています。しかし、膵癌を早期に発見できれば、治療により生存率は飛躍的に高くなります。

広島県尾道市は全国で初めて、病診連携で膵癌の疑いのある患者さんを拾い上げ、診断と治療につなげるための膵癌早期診断プロジェクト「尾道方式」を開始し、成果を上げています。「尾道方式」は全国に広がり、大阪市でも複数の医療圏でこの取り組みを導入しています。

今回は、尾道方式を立ち上げた花田敬士先生と、大阪市膵癌早期発見プロジェクトを始動させた八隅秀二郎先生にお話を伺いました。